

評議員に就任して



濱野 洋三 (地球惑星物理学専攻)
hamano@geoph.s.u-tokyo.ac.jp

小間先生の後任としてこのたび評議員に選出されましてしまいました。いまさら愚痴をいっても仕方ありませんが、たしか理学部に移ってきたばかりの平成2年度に地球物理学教室の教室主任(今の専攻長)に選出されまして、地球物理研究施設との合同、気候システム研究センターの創設という時期に重なり、新しい地球惑星物理学教室を作るためにほとんど毎日会議を開いていた一方で、理学部では大学院重点化に向けた取り組みが進められていました。さらに、理学部が大学院重点化したと思ったら、理学部中央化構想WGに入ることで新1号館の建設の準備に関り、その後建物委員長を引き受けて4年間務め、新1号館1期工事が完成する前に、委員長をやめさせていただくのと引き換えに総長補佐を1年間務めまして、その際に関った新キャンパス等構想推進委員会の推進室幹事もやっとこの10月で引き継ぎということになっておりました(実は推進室幹事は引き継ぎましたが、新研究科の整備室の幹事の方は、来年3月まで続きそうです)。それでやっと、数年前から動いている新プログラム「海半球ネットワーク」や「全地球史解読計画」等のプロジェクトに本格的に参加出来、太平洋の島々や海底への地球電磁気観測所の建設や、また太古代の岩石採集にでかけられると思っていた矢先でした。

全地球史解読と言っておいて、本当は矛盾するのですが、私は頭の構造が単純で、東京大学や理学部の伝統ある複雑な歴史的背景を理解する能力に欠如していますので歴史に弱く、もっともらしい発言とか、もっともらしい顔をするのが苦手でありまして、その上、評議員の役割を良く理解もしていません。

現在、評議会は形式的に東京大学の最高意志決定機関

ですが、その役割については今後検討すべき課題が残されています。むしろ、理学部・理学系内での研究科長を補佐するのが理学部の評議員の役割としては重要であろうと思っています。

最近に評議員に就任された小間先生や黒岩先生もご挨拶で書かれていますように、これまでの数年間というか、大学院重点化後の平成5年以降については、理学部・理学系としても東京大学の柏新研究科創設に関することが最も重要な問題でした。柏というスペースを獲得することは、本学にとっての発展の可能性を確保することで重要ですが、そのためには理学部・理学系からも多くの教官を新研究科に送り出すこととなり柏新研究科は理学部・理学系にとっても、身近な事柄です。これに関しては、新領域創成科学研究科が平成10年に設置され、平成11年度には、当初計画に従った三つの研究系からなる新研究科の体制が整い、学生受け入れを開始する見通しとなり、さらに研究科のための土地も補正予算によって確保されたのが現状です。もちろんまだまだ新研究科の建物が作られ移転が行われるまでの数年間は大変でしょうが、東京大学としては、それ以降の本学の将来を考える時期となっています。といってもそれほど悠長なことではなく、外的な条件として、2001年に向けた省庁再編と、大学の独立法人化等の問題があり、後者は来年1月に出される大綱には含まれないとしても今後検討されることとなろうと思われまます。理学部・理学系では、この部局がどうするべきであるかを考えるときには、当然東京大学の行く末も含めて考える必要があります。といいましても、やはり目先のことに目がいくのは人情でして、理学部の今後の建物計画、建物維持費、研究支援体制、事務合理化等に関する問題、私自身に関係の深い地球惑星科学専攻の創設計画等があり、近未来の問題とこれらの当面の問題については、できるだけ調和的に理学部・理学系全体としての問題としてとらえ、評議員として研究科長を補佐して、少しはお役に立ちたい(多少悲壯感はありませんが)と考えています。